



ボランティア通信 2025. 7 Vol. 261

ななかま



発行 交野市ボランティアグループ連絡会
 (交野市ボランティアセンター内)
 V連絡会 E-mail katano.vltr94@gmail.com
 Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

ボランティアを
 紹介してほしい人
 ボランティア活動を
 はじめたい人
 ボランティアセンターに
 お問い合わせください
 メール(左横参照)または
 電話 072-894-3737



令和7年度活動計画 明るく、楽しく、ボランティア活動

健康福祉フェスティバル

11月9日(日): ゆうゆうセンター館内・ふれあい広場
 屋外: ふれあい広場で「バザー」と「植木市」で出店
 館内: 所属グループの活動紹介パネルを展示、並びに
 所属グループによる活動体験など

市民交流フェスタ

12月13日(土) 13時~
 ゆうゆうセンター 4F 多目的ホール
 市民とボランティアとの交流
 福祉施設等との交流

ボランティア通信なかま
 編集体制と制作方法の検討
 なかま配付方法の検討

地域のプロや施設と手を結ぼう

地域で活躍されているプロフェッショナルの方々や、地域の福祉施設との交流を進めます

※6月24日、「まちぷらす」を役員・リーダーが訪問しました

その他

ふくし教育への関心を広めよう!
 ボランティア募集のポスター制作

交野市地域福祉活動計画へ参加

令和8年度から始まる第5期交野市地域福祉活動計画について、連絡会もこの計画に参加し、連絡会の活動目標(アクションプラン)作成に取り組みます



「人と関わるのが好き」
 「誰かの役にたいたい」
 「余暇時間を有意義に過ごしたい」
 そんな思いをボランティア活動でカタチにしませんか。1日だけの参加でも大丈夫です! 市内在住・在勤・在学の16歳以上(プログラムによる)の人体験以外の活動相談も随時受け付けています。

(1) 登録ボランティア向け
 インスタグラム講座講師サポート
 募集数 5名
 対象 16歳以上(高校生可)
 日時 8月19日(火) 13時30分~15時
 場所 ボランティアセンター

【体験例】

(2) 障がい者との交流「ほほえみ」
 ベルマーク分別体験
 募集数 5名
 対象 18歳以上
 場所 8月28日(木) 10時30分~12時
 場所 ボランティアセンター

(3) ゲームスポーツ(eスポーツ)
 フェスタ運営スタッフ
 募集数 3名
 対象 18歳以上
 日時 8月27日(水) 13時~17時
 場所 ゆうゆうセンター

(4) 介護衣料「系ぐるま」
 拘縮改善(にぎりっこ)作製体験
 募集数 5名
 対象 18歳以上
 日時 9月2日(火) 10時30分~12時
 場所 ボランティアセンター

(5) おもちゃ作りとニュースポーツ・演芸
 「玉手箱」おもちゃ作製体験
 募集数 5名
 対象 18歳以上
 日時 9月18日(木) 13時~14時
 場所 ボランティアセンター



Web 申込可

申込: ボランティアセンター
 TEL: 072-894-3737
 FAX: 072-891-3340

ボランティア通信「なかま」は発行以来33年が経過しましたが、中断した時期もありましたが、261号も続いてきたのは驚きです。その時々々の活動や話題を取り上げながら、ボランティアの身近な機関紙を標榜してきましたが、その使命はまだ「道半ば」でしょうか。今年度は「なかま」について、いろいろな角度から検討を加えていく方針が出ています。この機会にボランティア皆さんのご意見等をお寄せください。お待ちしております。

後編
 記集

なかま次号発行予定
 令和7年10月6日(月)

連絡会からのお知らせ

健康福祉フェスティバル・ふれあい広場、市民交流フェスタの取り組みにあたって、両イベントの実行委員会を立ち上げました。第1回実行委員会(合同)を下記の通り開催します。
 日時 7月16日(水) 10時~
 場所 ボランティアセンター

5/21

大阪府市町村ボランティア連絡会 令和7年度総会／講演会が開催

大阪・関西万博に出展

令和7年度総会では、今年の事業計画の柱として「大阪・関西万博」への出展が決まりました。これはボランティア活動のすそ野を広げるための広報・周知活動（連絡会研修交流会の一環として）であります。

開催日は7月24日10時から21時まで展示開催します。場所は西ゲートに近い会場で一番西端のフューチャーライフヴィレッジです。

出展内容については、府社協と連携しながら役員会で検討を進めていきます。外国の人たちをはじめ来場者に大阪のボランティア活動をどう見せるか、国際色も出しながら難しいところですが期待に応えるべく懸命に取り組んでいます。



一番暑い時期ではありませんが、ご来場の際は是非お立ち寄りください。

役員改選 馬場氏が副会長に就任

令和7・8年度、大阪府市町村ボランティア連絡会の役員改選では、当連絡会の馬場会長が副会長に選出されました。各役員の氏名所属市町村は左記の通りです。

役職	氏名(所属市町村)
会長	山本 啓一郎(四条畷市)
副会長	馬場 巡(交野市)
〃	矢上 敬子(吹田市)
〃	辻田 保子(八尾市)
〃	上東 千草(泉大津市)
会計	芦田 三雄(和泉市)
監査	大藪 幸雄(茨木市)
〃	関野 伸一(松原市)

講演会では 担い手探しは多面的に

引続き開催された講演会では「ボランティアにおける「担い手確保」について考える」と題した、摂南大学講師上野山裕士氏の講演があり、

地域のプロと手を結ぼう／「出前講座」

脱水症・熱中症から身を守ろう

5月20日、きんもくせい特別養護老人ホーム相談員の五十嵐さん、看護科長の大内さんより「脱水症、熱中症を防ごう」をテーマに講演をしていただきました。

毎年暑くなると、天気予報で熱中症の危険度などが発表されますが、なかなか「自分が…」とは考えません。しかし、少しでも無理をするとか大変な症状が起こり、命にかかわることもあるそうです。喉が異常に渇く、汗が出ない、だるい、ふらつく、高熱が出るなどは要注意です。涼しい所で、衣服をゆるめ、首、脇の下、足のつけ根などを冷やす、水分、塩

分を補給するとよいそうです。

しかし、一番は脱水症、熱中症にならないように、こまめな水分・塩分補給を心がけること。もう一寸と我慢して頑張るのではなく、先ずは、給水タイムを取る勇気が大切と教えて頂きました。

また、乳幼児や高齢者は、体調の変化に気が付きにくいので、周りの人たちが、気を付けておくことが大切とのこと。

プロの方の話を聞くことで「分かっているつもり」の事柄が「確信」になるよい機会でした。



在宅訪問「陽だまり」

メンバー増員でパワーアップ

「個人宅」「高齢者施設」「にじ★カフェ」に出向いて利用者さんとお話をする活動をしています。昨年度より新メンバー6名加わり、総勢16名のグループにパワーアップしました！

学びとしては年に一度、講師を招いて「傾聴」の勉強会があり、その内容を試行錯誤しながら取り入れ、日々の活動に生かしています。また月に一度定例会があり、メンバー同士の情報交換をすることで新たな気付きや刺激を受け、とても有意義な時間になっています。

「ゆるく、楽しく」をモットーに、みんなが無理なく続けられるよう工夫しながら活動しています。



情報発信としての活用を検討

6月24日、リーダー研修として各グループリーダーと役員で「まちぶらす」を訪問しました。「まちぶらす」は2階が居宅介護事務所、1階は

また連絡会をはじめ、各グループの活動を地域に発信できる場として「まちとしよ」の活用を検討してはどうかとの意見も出しました。

点訳「虹の会」

岩船小学校で点字体験 4年生60人が点字体験

ふくし教育の一環で、今年度は岩船小学校での点字体験(4年生2クラス)を6月13日、5・6時限目に実施しました。また「虹の会」スタッフに混じって社協職員と摂南大学の学生にもお手伝いをいただきました。

初めて点字に触れる児童たちに、6点で構成される点字の成り立ちや配列を知ること、そして点字を読むこと、点字を書くことから順次進めました。

実際に点字を書くときに定規の6点に点筆が垂直に下りず随分苦労している児童も散見されましたが、みんなが自分の氏名を書けるようになりました。

点字体験の感想などは後日「虹の会」に届く予定です。

児童たちからどのような感想・意見が寄せられるのか、楽しみにしているところです。



みらいにつながるふくし教育講座から 社会的孤立をなくそう！

5月14日、「みらいにつながるふくし教育」のテーマで、講師の元大阪教育大学教授・ふくしと教育の実践研究所 SOLA(Social Labo)主宰 新崎国広氏が、『ほっとかれへん！子どもたちの未来』、私たちの未来につながる「ふくし教育」について熱く話されました。

また福祉教育の実践者として、交野市内の小学校で現役の先生は、子どもたちが赤い羽根共同募金がどのように使われているかを知ったり、視覚障がいや高齢者体験などを通して、障がいのあることの大変さを実感することで、困った人を助けようという意識が芽生えている。この体験は大人になっても残るもので、困った人を見れば助けようという意識が蘇ってくるものと感じています...

いま元気な人も何時、障がいを持つかもしれない。高齢になれば若い時のようには動けない。そうなっても「助け上手、助けられ上手」で、孤立する人がない世の中でありたいというお話は、とても印象に残りました。



なかま探し 五つのポイント



- ①タテの関係だけでなく、「ヨコの関係」でつながる
- ②地域にあるさまざまな「得意」を積極的に活用する
- ③若者が活動しやすい環境(ゆるく地域とつながる)をつくる
- ④「必要性に基づく協働の輪」を戦

略的にデザインする「誰に、何を、なぜ、やってみよう？」など具体的な役割を示す
⑤担い手として「多様な境遇」の人たちを受け入れる
まとめてみますと、タテや個々のグループ単位にこだわらず、ヨコの関係で広く地域の専門職等と協働し、無理をせず、いろいろな人たちがつながり、新たな人の輪をひろげる視点を持つことが大切といえます。
新たなボランティアの確保には、遠回りかも知れませんが五つの手法を使って「担い手探し」をしてはいかがでしょうか？